

本殿

くしふる神社は1694年に、穂觸の峰に社殿が建立され、長く神々が天降った神聖な場所と信じられてきました。日本神話によると初めて地上を治めたとされる瓊々杵尊が祀られています。その他の神も祀られて、中には武甕槌命(たけみかづちのみこと)らが力比べをした故事が相撲の始まりと伝えられています。

本殿に施された彫刻は、17世紀と18世紀の職人によるものです。鳳凰や龍を含む彫刻は、中国神話の影響の大きさを表しています。

四皇子峰（しおうじがみね）

高千穂地方の伝説によると、この場所は、日本の最初の天皇である神武天皇と三人の兄弟である、五瀬命(いつせのみこと)、稲飯命(いなひのみこと)、三毛入野命(みけいりのみこと)の皇子が生まれ育ったところされています。神武天皇は、45歳の時に大和の国（現在の奈良県）へ征服に向かうまで、ここで過ごしていたと考えられています。以来、神武天皇の軍事力の成果が日本皇帝時代の基盤をなしています。

日本神話によると、四皇子は、この地上を治めるために天降った瓊々杵尊の子孫であり、皇子たちも神であるとみなされています。四皇子は日本神話や地元の伝説にも登場します。高千穂の有名な伝説の一つに、三毛入野命が鬼八という悪神を退治し、ばらばらにして葬り人々を助けたと言う話があります。ここは神である四皇子の生誕の地であり御聖域とされ、俗世からは隔たりがありました。

高天原遥拝所（たかまがはらようはいしょ）

天孫降臨の後、神々はこの丘に立って遠くから天に向かって祈りを捧げたと言われていいます。この地域は今も天と地を結ぶ神聖な場所とされ、この小さな神社で神々に敬意を表し祈る人もいます。